

平成 25 年 1 月 15 日

横 浜 市 長
林 文 子 様

横浜環状道路（圏央道）対策連絡協議会（連協）
会 長 比留間 哲生

国交省事業評価監視委員会の南線についての審議に関する質問

公務ご多忙の折柄、恐縮ながら同封文書に目を通した上で市長としてのご意見を頂きたくお願い致します。

当該文書は平成 24 年度一般国道 468 号（横浜環状南線、略称南線）の再評価に関する国交省関東地方整備局事業評価監視委員会の審議に対する私達地元関係住民の意見と批判をまとめたものであります。文書に述べた通り、当該委員会の審議は地元住民の意見を無視し、事業継続を前提とした一方的なもので私達としては到底容認できるものではありません。ここではそれらの中の 2 点について是非貴職のご意見を伺いたく質問致しますので可及的速やかにご回答下さるようお願い致します。

第 1 は、11 月 26 日の委員会で地盤工学の専門家である小泉委員は「南線沿線は地盤強固でトンネル掘削に何の問題はない」との意見陳述をしましたが、これは神奈川県と横浜市の環境影響評価の「南線沿線は軟弱地盤地帯である」とする公式見解と真向から相反するもので横浜市として看過できないことは言うまでもありません。というのは、本事業が横浜市の見解を無視して南線沿線は強固な地盤と見做して工事を強行し、軟弱地盤の故に住民に甚大な被害が発生したとき、その責任は事業者だけではなく、横浜市にもあることは言うまでもないからです。従って横浜市としては、南線沿線は強固な地盤地帯であるとする委員会の間違いを正すことを直ちに行うべきであると私達は考え、そのことを強く求めますが、これに対して市長としてどのように対応されるかお尋ねします。

第 2 は、事業者の計画では庄戸地区に断面積 870 m²の巨大トンネルを掘削するとされていますが、これは横浜市営地下鉄の断面積 40 m²の 20 倍以上の巨大なもので日本はもちろん、世界でも未だ例のない巨大なものであり、このようなものが 1300 戸、4000 人の住民が居住する住宅地の真中に建設されることなど想像することもできず、住民の中には住宅地の真中に小型の原発を設置するのと同じくらい怖いことだと恐れる人もいます。私達は市民の生命と財産を守ることを第一に考えるべき横浜市がこのような計画をそのまま容認していることに大きな疑問と不信を覚えたいわけにはいきません。

その点で、もしこのような巨大トンネルが掘削されて住民に甚大な被害が発生したとき横浜市としてどのように責任をとり、どのように対応するのか是非伺いたく、ご意見をお聞かせ下さい。

以上